

植木センターだより

令和7年 第1号 (Vol.152)



カリン

カリン（別名カラナシ）は、バラ科カリン属の落葉高木です。

原産は中国東部で、日本では東北地方以南の本州、四国、九州で植栽されています。

花期は3月から5月頃で、白や淡紅色の花を枝先に咲かせます。

果実は大型のナシ状果で、紅葉する10月から11月に黄色に熟します。また、よい香りがしますが、固くて酸味が強いので生食には適さず、砂糖漬けやハチミツ漬け、コンポート、果実酒などにして利用されます。

目次

県内市場動向	1
調査研究の現場から（結果報告）	
「緑化木に発生する病害虫の実態についての調査」	3
緑化木の主要害虫 No.37（クロケシツブチョッキリ）	7

県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは、1986年から県内の植木市場（井堀・矢合・福地〔現在は廃止〕）において、主に地元から出荷される緑化木を中心に現在31品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。

今回は、2024年春期・秋期の取引量の概要を紹介します。

I 春期

1 全体取引量〔図－1〕

今期の全体取引量は約13.3万本で、前年同期（約15.0万本）から減少し、前年同期比は約89%となりました。全体取引量は2010年以降減少傾向が続き、2016・2017年にはわずかな増加に転じたものの、再び減少傾向となり、今期も減少しました。

2 用途別の取引動向

一般植木の取引量は約4.9万本で、前年同期（約5.2万本）より約0.3万本減少しました。自然形ではカエデ類が多く、続いてシマトネリコ、キンモクセイ、ツバキで前年からカエデ、ツバキが減少し、シマトネリコ、キンモクセイが増加しました。仕立物ではクロマツが多く、続いてイヌマキ、イヌツゲでいずれも減少しました。

株・玉物の取引量は約6.7万本で、前年同期（約8.0万本）より約1.3万本減少しました。主要樹種はサツキで、オタフクナンテン、ツツジ類が続いています。生垣用樹は約1.7万本で、前年同期（約1.8万本）より約0.1万本減少しました。取引量の多い品目は、サザンカとイヌマキで、両種で全体の約84%の取引量となりました。

3 取引量上位の動き〔表－1〕

調査対象の取引量の上位10品目では、従来からサツキとツツジ類が上位を占めていましたが、今期はツツジ類にかわり、オタフクナンテンが順位を上げ、一方、サザンカが減少し、順位を下げました。

II 秋期

1 全体取引量〔図－2〕

今期の全体取引量は約7.8万本で、前年同期（約6.6万本）より約1.2万本増加しました。全体取引量は2008年以降減少傾向で、前期の取引量は2008年に比べると約25%まで減少しましたが、今期は若干持ち直しています。

2 用途別の取引動向

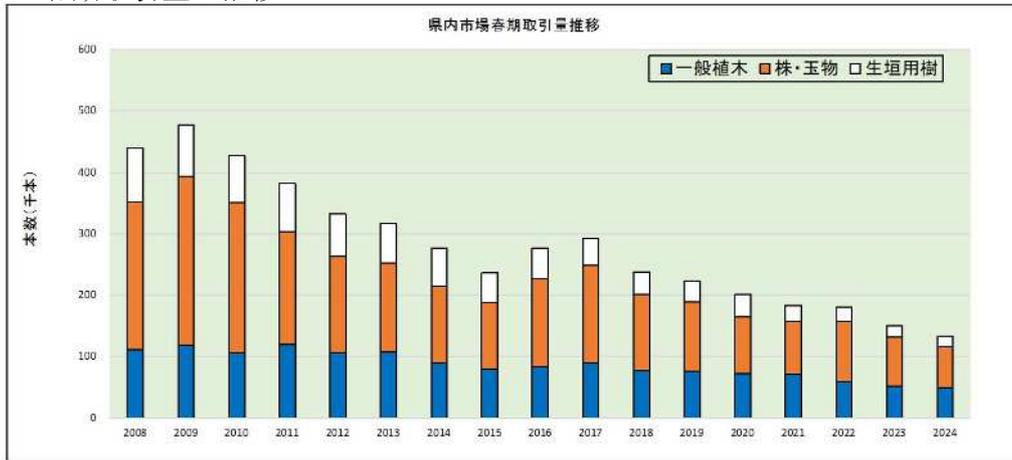
一般植木（自然形・仕立物）の取引量は約3.2万本で、前年同期（約2.5万本）より約0.7万本増加しました。自然形では、シマトネリコ、カエデ類、ソヨゴ、キンモクセイが多く、前年からキンモクセイは減少しました。仕立物では、クロマツ、イヌツゲが増加したものの、イヌマキ、キャラボクの取引数量は低調のままです。

株・玉物の取引量は約3.2万本で、前年同期（約2.7万本）より0.5万本増加しました。株・玉物の大半を占めるサツキ、ドウダンツツジ、イヌツゲが増加し、ツツジ類が減少しました。生垣用樹の取引量は約1.4万本で、前年同期（約1.4万本）とほぼ同じ取引量でした。生垣の主要樹種であるサザンカ、マサキは前年より減少しましたが、イヌマキ、カイヅカイブキは大幅に増加しました。

3 取引量上位の動き〔表－2〕

調査対象の取引量の上位10品目では、オタフクナンテン、サツキ、サザンカが上位を占めており、シマトネリコ、カエデ類が続いています。サツキ、シマトネリコ、カエデ類の取扱量が前年より大幅に増加し、ソヨゴ、ドウダンツツジの取扱量も大幅に増加し順位を上げ、全体的には増加傾向にあります。

図－1 春期取引量の推移



表－1 春期取引量上位10品目の動き

順位	2022			2023			2024		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	...	サツキ	株	...	サツキ	株	...
2	ツツジ類	株	↗	ツツジ類	株	↘	オタフクナンテン	株	...
3	オタフクナンテン	株	↗	サザンカ	生	...	ツツジ類	株	...
4	サザンカ	生	...	カエデ類	—	...	カエデ類	—	...
5	シマトネリコ	—	...	ドウダンツツジ	株	...	シマトネリコ	—	...
6	ドウダンツツジ	株	↗	オタフクナンテン	株	↘	ドウダンツツジ	株	↘
7	イヌツゲ	株	↗	イヌツゲ	株	...	イヌツゲ	株	↘
8	カエデ類	—	...	シマトネリコ	—	↓	サザンカ	生	↓
9	ツバキ	—	...	ヤマホウシ	—	...	イヌマキ	生	↑
10	イヌマキ	生	...	キンモクセイ	—	↑	キンモクセイ	—	...

前期比 ... : ±20%未満 ↗ : +20%以上40%未満 ↘ : -20%以上40%未満
 ↑ : +40%以上 ↓ : -40%以上 — : データなし
 区分 — : 一般植木 株 : 株・玉物 生 : 生垣用樹

図－2 秋期取引量の推移



表－2 秋期取引量上位10品目の動き

順位	2022			2023			2024		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	...	オタフクナンテン	株	...	オタフクナンテン	株	...
2	オタフクナンテン	株	↘	サザンカ	生	...	サツキ	株	↗
3	サザンカ	生	...	サツキ	株	↓	サザンカ	生	...
4	ツツジ類	株	...	キンモクセイ	—	...	シマトネリコ	—	↑
5	キンモクセイ	—	...	カエデ類	—	...	カエデ類	—	↗
6	イヌツゲ	株	↑	ヤマホウシ	—	↑	ソコ	—	↑
7	カエデ類	—	...	ツツジ類	株	↓	キンモクセイ	—	...
8	シマトネリコ	—	↓	イヌツゲ	株	↘	ドウダンツツジ	株	↑
9	ドウダンツツジ	株	↓	イヌマキ	生	↗	ヤマホウシ	—	...
10	イヌマキ	生	...	シマトネリコ	—	↘	イヌマキ	生	↗

前期比 ... : ±20%未満 ↗ : +20%以上40%未満 ↘ : -20%以上40%未満
 ↑ : +40%以上 ↓ : -40%以上 — : データなし
 区分 — : 一般植木 株 : 株・玉物 生 : 生垣用樹

—調査研究の現場から—

愛知県植木センターでは、植木生産の効率化、技術の向上などを図るため、調査研究を行っております。ここでは、令和5年度に終了した課題の概要を紹介します。

緑化木に発生する病虫害の実態についての調査

調査期間：令和4年度～令和6年度

1 調査目的

近年、都市部の公園や庭園等では多種多様の樹種が植栽されています。また、気候変動による病虫害の変化も推測されるため、当地方に発生する病気や害虫等を改めて実態調査することは、管理や防除対策に有効であります。

植木センターでは、2010～2012年に当地方で見られる代表的な病虫害の調査*を実施してその成果をまとめています。しかしながら、病気については調査が未解明の部分が多くあります。

そこで、樹木病虫害を3年間にわたり、植木センターを中心に、通年で調査を実施することにより、この地方の病害の実態（環境・立地条件と樹種との関係）を調査し、近年の病気の傾向を把握するとともに、診断や防除に役立つ情報をセンター報告やホームページ等で発信していくことを目的とします。

2 調査方法

(1) 対象樹木

植木センター内に植栽されている緑化木

98科約500種（園芸品種もある）、約24,000本

当地方で緑化木として生産・流通されている樹種

(2) 対象病虫害

緑化木の生育を妨げたり、美観を損ねるなどの害を与える全ての病気、害虫等

(3) 調査事項

- ・病虫害等が発生する樹種と症状
- ・病虫害等の生態（発生時期、形態、習性等）
- ・被害の形態、程度及び管理方法



植木センターの
公表済資料

3 年度別計画

項目／年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
1 病害虫実態調査	←		→
2 資料・情報収集	←		→
3 管理方法の検討		←	→
4 管理指針の作成			←

注)*「新樹種等に発生する病害虫の実態についての調査」(2010～2012)(植木センター報告No.12ほか、HPで公表)

4 調査結果

(1) 病虫害実態調査

4月から植木センター内の樹木に加害する害虫及び病気を調査

調査日数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R4	9	8	6	4	7	5	9	4	3	2	1	2	60
R5	6	4	3	3	3	2	3	4	1	4	2	2	37
R6	1	6	1	3	1	3	1	2	-	-	-	-	18

調査日数 3カ年115日

害虫 181種 (確認種、不明なものもあり)

病気 33種 (確認種、不明なものもあり)

参考 (とりまとめ資料による)

害虫 280種 (H25.3まで)

306種 (R3.12まで (追補版))

325種 (R6.12まで (現在集計中))

病気 21種 (H25.3まで)

40種 (R6.12まで (現在集計中))

(2) 資料・情報収集調査

a 現地調査等

場内および随時

東三河 (ヤドリギ、クスベニヒラタカスミカメ?) の情報等あり、現地調査

尾張 (クビアカツヤカミキリ) の情報あり

b 資料調査等

最新の発刊された資料及びネット情報による確認と比較

今後、当地方で発生や流行の予想される病虫害等

- ・松枯れ病 (マツノマダラカミキリ・マツノザイセンチュウ)
- ・ナラ枯れ病 (カシノナガキクイムシ)
- ・クビアカツヤカミキリ
- ・ツヤハダゴマダラカミキリ
- ・オリーブアナアキゾウムシ
- ・クスベニヒラタカスミカメ
- ・その他緑化木に発生する病気

(3) 注目する病害虫

a キマダラカメムシ



越冬成虫 (R4. 3. 1)



産卵 (R5. 5. 11 径1.2mm) 孵化1.5mm



卵 (抜殻) と幼齢



卵 (抜殻) と幼齢



幼虫 (中齢)



成虫

b アミガサハゴロモ (ハゴロモの仲間、チュウゴクアミガサハゴロモ?)



幼虫



幼虫



成虫



秋から多く産卵



傷跡



アミガサハゴロモ?

c その他



ツノロウムシ



ルビーロウムシ



クビアカツヤカミキリ

5 考察及び今後の予定

(1) 病虫害実態調査

害虫、病気の生態を継続調査した結果、従来の害虫、病気はかなり頻度が抑えられてきている。害虫については、キマダラカメムシやアミガサハゴロモ等、外来種やこの地方では見られなかった害虫が大発生する可能性があることがわかった。詳細については発生時期、害虫の特徴、被害の特徴、対策等をまとめた資料を作成する予定である。

一方、病気については従来のうどんこ病、すす病、赤星病等の発生例が多く、何年か継続する傾向である。当センターでは、多品種が植栽されているため農薬の効果が限定されていることも原因していると考えられる。特に菌類の病気については、樹種ごとに異なる病徴を表している判別がつかないものも多かった。また、最近流行してきたコニファー類の枝枯のような原因が不明な病気も見られた。

病虫害については、病気が昆虫等に運ばれることも多く、害虫と病気を一体として、調査・観察する必要があると考えられた。また、今後も、気候の変化、流通の広域化により病虫害が多様化してきている実態を定期的に把握する必要があると感じられた。

(2) 今後の予定（普及資料の作成等）

最新版の病虫害検索ガイド、防除指針をホームページで改訂版を公表する予定です。なお、最新情報は、植木センターだより等で随時、情報発信します。

緑化木の主要害虫 No.37

クロケシツブチョッキリ

甲虫目（鞘翅目）オトシブミ科



茎を傷つけられ萎凋した新梢 H23.5.6 サルスベリ



新梢の茎を傷つける本種 H23.5.9 ラズベリー



傷つけられた新梢は黒く乾個して枯れる H23.6.24 サルスベリ



枯れた新梢は新たな萌芽により回復 H23.6.24 サルスベリ



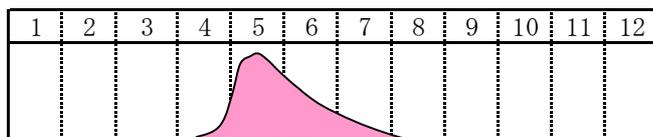
葉を食害する本種 H23.7.1 ラズベリー

1. 発生樹種

ラズベリー、サルスベリ、バラ、ハマナス

2. 害虫の特徴（発生時期、形態等）

4月下旬頃から本種成虫によると思われる被害が発生し、5月～6月に加害中の成虫をよく見かける。年1回の発生らしいが、成虫が長期間見られることから2～3回発生しているともいわれ、詳細は不明である。成虫は、体長2.5～3mm、全体黒色で背面は灰色の軟毛がある。成虫は、新梢に傷を付けて産卵し、茎内で孵化した幼虫は枯死した茎や花蕾を摂食し、枯死部の落下とともに地上部に運ばれ、老熟すると土中に移行して蛹化するのである。



3. 被害の特徴

イヌマキでは、葉を不規則に噛み切り、食害部位が褐変するので著しく美観が損ねられる。イヌマキの仕立物に大発生してほとんど丸坊主にされたことがあるが、この時は木を叩いて衝撃を与えると10数匹が落下した。カキなどでも、不規則な食痕をよく見かけるが、ほとんどは本種やマメコガネ、ミノガ類による食害である。

4. 対策

成虫は放置すると次々と新しい新梢を加害するので、新梢の萎凋に気づいたら成虫を探して捕殺又は薬剤散布により駆除する。

令和7年3月 Vol.152

編集：(公財)愛知県林業振興基金植木センター管理事務所
〒492-8405 稲沢市堀之内町花ノ木129

発行：愛知県植木センター

TEL 0587-36-1148 FAX 0587-36-4666